

# 令和7年度 全国特別重点調査（本管調査） 結果概要

対象路線：原町・富高・新町・日知屋・古田・花ヶ丘・亀崎雨水幹線（管径2m以上が対象）

## 調査目的

今回の調査については、令和7年1月28日に埼玉県八潮市で発生した下水道管の破損に起因する道路陥没事故を受け、国土交通省からの「下水道管路の全国特別重点調査」の要請を受けて実施したものの。

## 調査対象

- 「管径2m以上」かつ「平成6年度以前」に設置された下水道管路
- 調査対象のうち、以下の[1]～[4]のいずれかに該当する箇所の調査を優先的に実施（優先実施箇所）

- [1] 埼玉県八潮市の道路陥没現場と類似の構造・地盤条件の箇所
- [2] 管路の腐食しやすい箇所
- [3] 陥没履歴があり交通への影響が大きい箇所
- [4] その他（沈砂池の堆積土砂が顕著に増加した処理場・ポンプ場につながる管路）

### ▼日向市の調査対象

上記条件の対象となる管路は、原町雨水幹線などの雨水幹線7路線（約3.4km）であり、優先実施箇所はなかった。

また、污水管については、条件に該当する箇所はなかった。

## 考察

調査の結果、緊急度Ⅰは約40%（21スパン）、緊急度Ⅱは約30%（16スパン）であることを確認した。

緊急度ⅠⅡの主な要因は、コンクリートの中性化やクラック等の損傷により鉄筋が腐食・膨張し、コンクリートの剥離や欠落が生じている箇所が多いことにある。加えて、継手からの侵入水も確認されている。

ただし、雨水管の構造に直ちに影響を及ぼす破損箇所は確認されていない。なお、その後実施した路面からの地中レーダーによる空洞調査においても、破損等に起因して道路陥没を引き起こす空洞は確認されていない。

また、調査方法や判定基準は自治体ごとに異なっており、当市では比較的厳格に調査結果を判定したことから、調査延長に対して緊急度ⅠⅡと判定された割合が大きくなった可能性があると考えしている。

## 結果（本管潜行目視調査）

調査延長

3,425.77m  
(52スパン)

緊急度Ⅰ（重度）  
1,733.56m  
(21スパン)

緊急度Ⅱ（中度）  
1,102.48m  
(16スパン)

緊急度Ⅲ（軽微）  
510.13m  
(10スパン)

劣化無し  
79.60m  
(5スパン)

### 延長（m）



### スパン（本）



## 緊急度Ⅰ 代表例（写真）



コンクリート剥離・鉄筋露出



クラック（管頂部付近）



継手からの浸入水

【緊急度Ⅰ】  
原則1年以内に速やかな対策を実施。

【緊急度Ⅱ】  
応急処置を実施した上で、5年以内に対策を実施。

【緊急度Ⅲ】  
簡易な対応により必要な措置を、5年以上に延長できる。